

ジェンダー平等・男女共同参画社会の推進について

【調査の目的】

経済のグローバル化や少子高齢化、人口減少など、私たちを取り巻く環境が急速に変化していく中、誰もが、社会のあらゆる分野で自分に合った生き方を選択し、個人として持つ能力を発揮することができるジェンダー平等・男女共同参画社会の実現は、大変重要です。

福岡県では、「第5次福岡県男女共同参画計画」（計画期間：令和3年度～令和7年度）を策定し、「男女がともに個性と能力を発揮できる豊かで活力ある社会」等を目指し、様々な施策・事業を推進しているところです。また、DV（ドメスティック・バイオレンス）をはじめとする女性に対する暴力は依然として深刻であり、社会的・経済的に厳しい状況にある女性への支援も、ジェンダー平等・男女共同参画社会を実現していく上で重視すべき課題です。

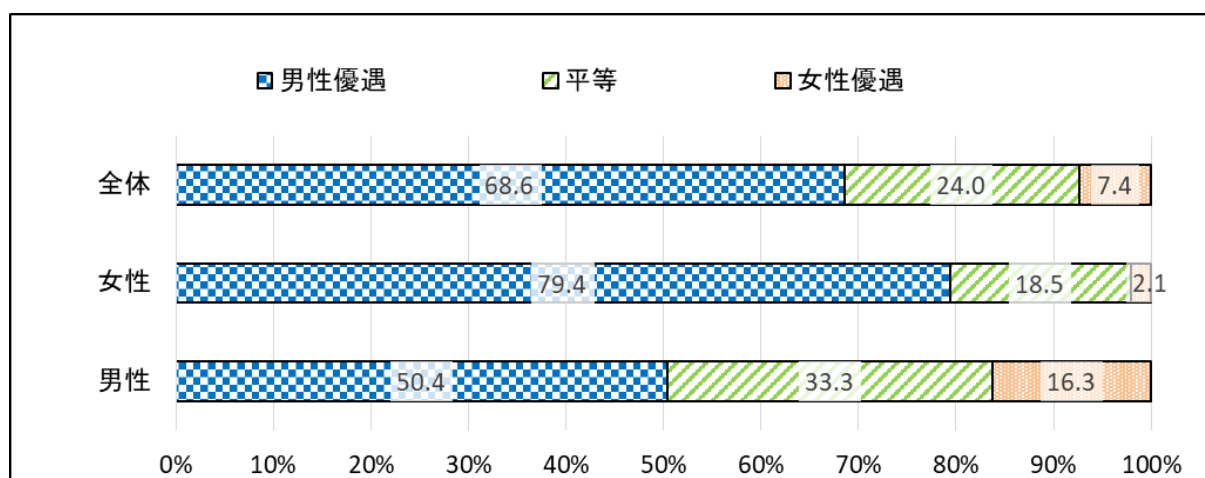
こうしたことから、今後のジェンダー平等・男女共同参画を推進する施策を検討・企画する上での基礎資料とするため、県民のジェンダー平等・男女共同参画に関する意識や実態を把握するとともに、DVについての認知度、相談窓口の周知度等を把握するため、調査を実施するものです。

（人づくり・県民生活部男女共同参画推進課）

問1 あなたは、普段の生活で男女の地位が平等だと感じますか。

【回答内容】

全体では、「男性優遇」と感じる人が68.6%、「平等」と感じる人が24.0%、「女性優遇」と感じる人が7.4%となっている。一方で、男性において「男性優遇」と感じる人は約5割程だが、女性においては約8割を占めるなど、女性のほうがより強く「男性優遇」と感じていることがわかる。

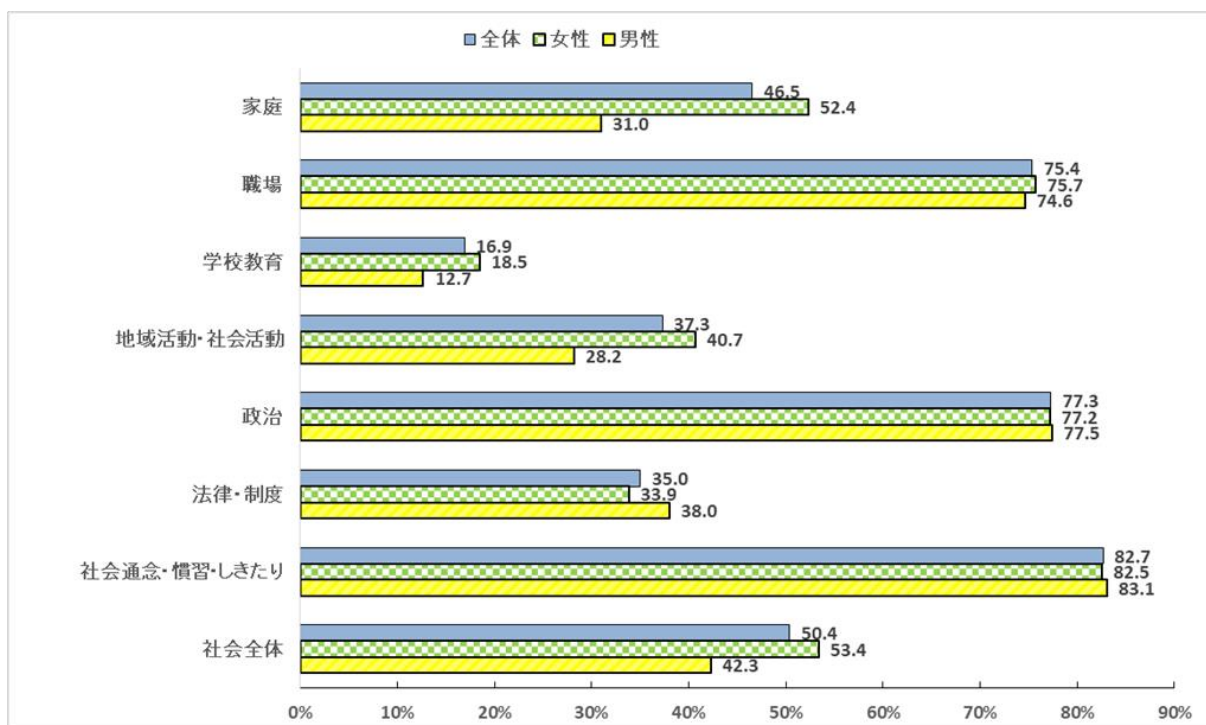


問1-2 (問1で「1. 男性優遇」と答えた人にお尋ねします。)

あなたは普段どの場面で男性優遇と感じますか。

【回答】

全体では、「社会通念・慣習・しきたり」を挙げた人(82.7%)の割合が最も多く、次いで、「政治」(77.3%)となっている。



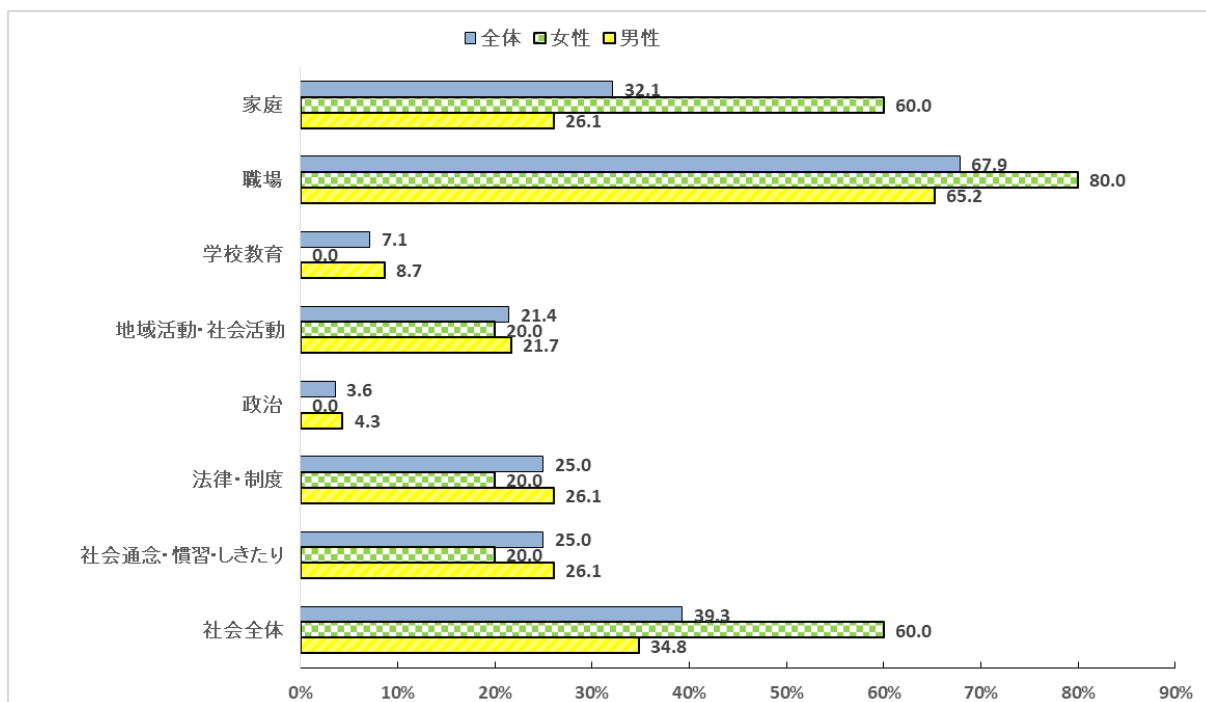
(回答者数：全体 260 人、女性 189 人、男性 71 人)

問1-2 (問1で「3. 女性優遇」と答えた人にお尋ねします。)

あなたは普段どの場面で女性優遇と感じますか。

【回答】

全体では、「職場」を挙げた人(67.9%)の割合が最も多く、次いで、「社会全体」(39.3%)となっている。

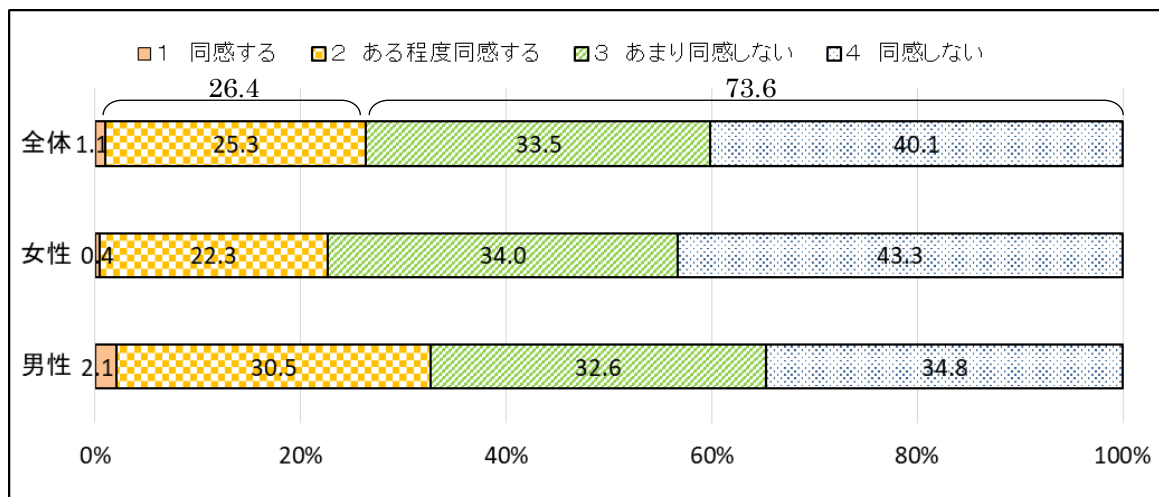


(回答者数：全体 28 人、女性 5 人、男性 23 人)

問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

【回答内容】

全体では、「同感する」「ある程度同感する」を合わせた「賛成派」が26.4%で、「同感しない」「あまり同感しない」を合わせた「反対派」が73.6%となっており、性別役割分担意識を容認しない人の割合が多くなっている。

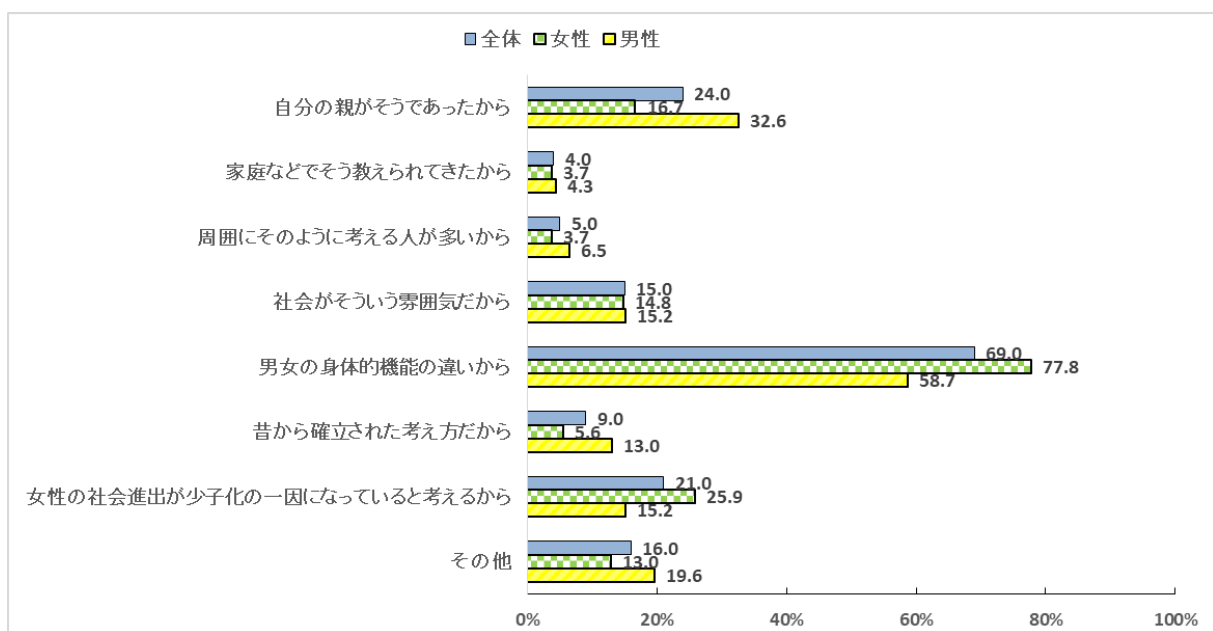


問2-2 (問2で「1. 同感する」、「2. ある程度同感する」と答えた人にお尋ねします。)

あなたが、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、そのように考える理由は何ですか。(〇は2つまで)

【回答】

全体では、「男女の身体的機能の違い」を挙げる人(69.0%)の割合が最も多く、次いで、「自分の親がそうであったから」(24.0%)となっている。一方、女性においては「女性の社会進出が少子化の一因になっていると考えるから」の回答(25.9%)が二番目に多く、男女の違いがみられる。



(回答者数：全体 100 人、女性 54 人、男性 46 人)

問3 あなたは、女性だけでなく、男性やLGBTの方もDV被害を受けていることを知っていますか。

※DV（ドメスティック・バイオレンス）とは
配偶者（事実婚を含む）や交際相手からの暴力をいいます。

【DVの事例】

身体的暴力	殴る、蹴る、物を投げつける など
精神的暴力	大声でどなる、無視する、外出・電話を制限する など
性的暴力	性行為の強要、避妊に協力しない など
経済的暴力	借金をさせる、生活費を渡さない など
子どもを利用した暴力	子どもに悪口を吹き込む など

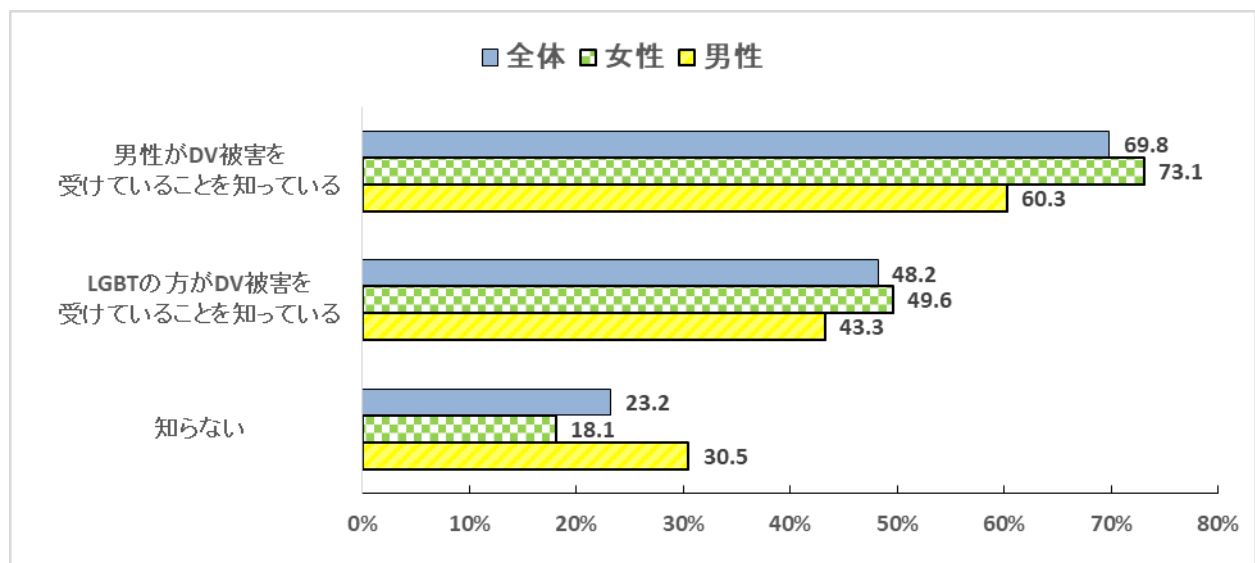
※県内12ヶ所の配偶者暴力相談支援センター、男性DV被害者のための相談ホットライン、LGBTの方のDV被害者相談ホットラインで、相談を受け付けています。

※LGBTとは

L（レズビアン）同性を好きになる女性、G（ゲイ）同性を好きになる男性、B（バイセクシュアル）異性を好きになることもあれば同性を好きになることもある人、T（トランスジェンダー）出生時に割り当てられた性別とは異なる性別を生きる人の頭文字をまとめたもので、性的少数者の総称のひとつとして使われています。

【回答内容】

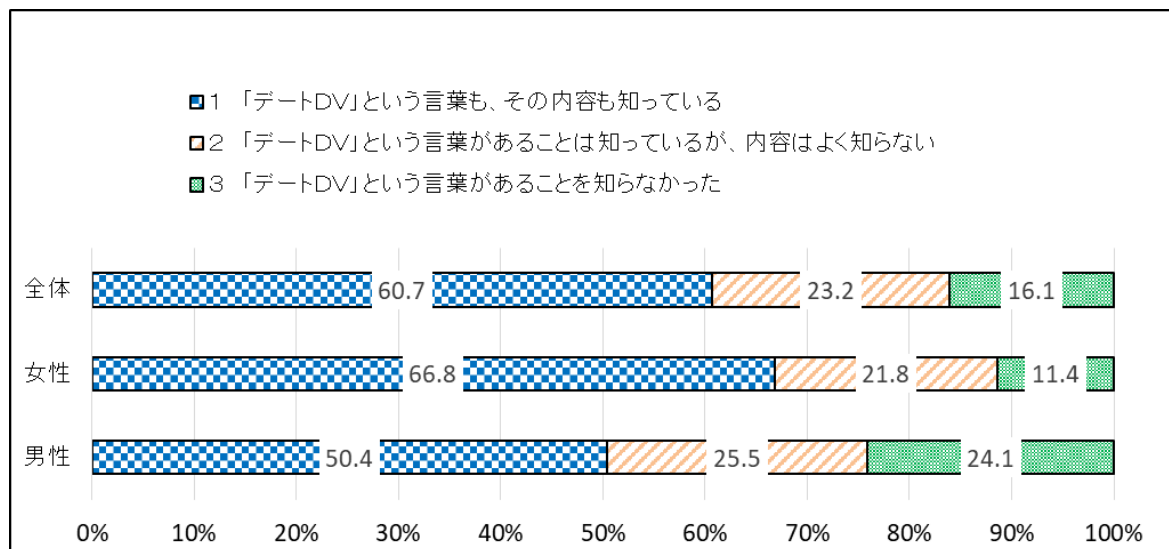
「男性がDV被害を受けていることを知っている」と答えた人は、全体で7割ほどいたが、「LGBTの方がDV被害を受けていることを知っている」答えた人は、全体で5割ほどであった。



問4 あなたは、「交際相手からの暴力」(いわゆる「デートDV」)について、知っていますか。

【回答内容】

全体では、「言葉も、その内容も知っている」が60.7%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が23.2%、「言葉があることを知らなかった」が16.1%となっている。



問5 ジェンダー平等・男女共同参画の推進について、これまでの設問以外に意見はありますか。

【回答内容】（意見抜粋）

- ・社会活動としては、行政や教育機関などが「これは差別でいけないんだ」というビジョンをしっかり持ち、ジェンダー平等の大切さを今以上にメディアなどを最大限活用し、投げかけ続けることは重要で今後とも続けていってほしい、と考えます。
- ・九州全体に広がっている、男尊女卑的で古典的な価値観をアップデートできるよう、もっと福岡県がリードして変えていってほしい。
- ・職場での出世に関して、女性が子どもを産もうとした際に必ず自身のキャリアが中断され、キャリアを中断させたくなかったら子どもを諦めるしかない現状を変えないといけないと思います。
- ・独身の時に会社で働いている頃は女性でも重役になれたり、キャリアを目指せたので、男女の格差は感じないと思っていましたが、実際に家庭に入ると男女の格差は全く埋められていないという現実を突きつけられました。
- ・男女平等という面では、子育てにおいて男女が平等に産休育休を取得できるようもっと県に力を入れて欲しいなと思います。また女性の育休からの仕事復帰後のサポートももっとしてほしいです。
- ・男性の育児参加率が高い家庭の方が子どもが多い統計もあるため、長い目で見て男性が家庭に多く携われるような社会づくりが必要に感じます。
- ・自治会の業務は女性の感覚も極めて重要ですので、女性も積極的に会長職の業務に携わることが必要と考えます。